

### ■教育尊重の伝統をうけて

都留市の教育には、古い歴史とそれを受け継いできた伝統があります。幕府の直轄地となってからの天保13年（1843）時の代官佐々木道太郎は谷村陣屋内に教諭所を設け、子弟の教育にあたりました。谷村教諭所はその後、嘉永4年（1851）に谷村興譲館となり近代の谷村小学校に受継がれ教育尊重の風土が早くも培われました。

### ■都留文科大学

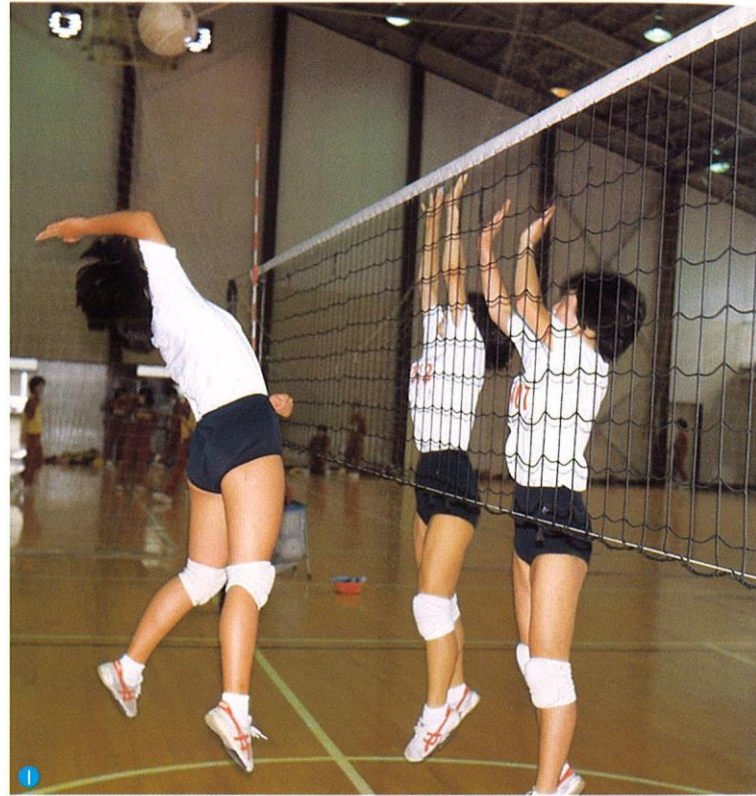
教育尊重の伝統を背景に特色ある教育を推進し、その担い手として多くの卒業生を世に送り出してきた都留文科大学は、昭和27年の県立教員養成所を前身として、昭和30年都留短期大学の創立、さらに昭和35年にこれを4年制の都留文科大学に昇格させ、現在の都留文科大学となり、年々充実した教育を行っているところです。

### ■小・中・高校教育の充実

市内には、現在8つの小学校と3つの中学校、大学1校があり、このほか私立幼稚園2、県立高等学校2校というように、一環した教育環境のもとに、児童、生徒、学生たちが充実した学校生活を送っています。ことに教育施設の整備に重点をおき、子どもたちが快適な環境のもとで教育がうけられるよう、これまでも校舎の改築や屋内運動場プール等の施設整備が進められてきました。また、いち早く手がけた中央学校給食センターの建設などによって、市内の小・中学校で完全給食が実施されています。さらに、県立谷村工業高等学校では21世紀に向けて、電子情報科を設置するなど、大いに注目されています。

### ■創造性あふれる社会教育

「たくましく心豊かな人づくり」をめざし、年々充実している都留市の社会教育。ともすれば、連帯感や強調性が失われがちな現代社会にあって、地域社会の形成や活力ある人間性の回復など、その重要性があらためて見直されています。スポーツやレクリエーション、芸術文化活動を通して、市民の心と心のふれあいや創造する喜びを見出す生涯教育の充実のために、家庭や学校、職場、地域社会の連携をはかりながら、人々の手から手へ、心から心へとふれあいの輪が広がっており、文化都市「都留」にふさわしく、市民の交流の場、発表の場、また学習の場としての社会教育施設の充実、推進をめざしているところです。



写真



写真

- ① 都留二中バレーボール
- ② 禾生第一小授業風景
- ③ 谷村第二小サッカー
- ④ 文科大学ゼミナール
- ⑤ 禾生第一小学校
- ⑥ 文科大学で開かれた公開講座
- ⑦ テニス
- ⑧ 文科大学音楽研究棟
- ⑨ 県立谷村工業高校電子情報科
- ⑩ 第17回子どもまつり

# 創造力あふれる人づくり

【子供たちの写真】



6 10

写真

7

写真

写真

# 都留 STEP & JUMP

## 産業の振興…創意と活力あ

### ■地場産業の甲州織

甲州織に代表される繊維工業は、製織や染色にその高度な技術を誇っています。地場産業として中心的な位置を占めてきた甲州織ですが、技術革新によってこれまでの伝統にさらに付加価値を与え、生産、流通の再編成を図り、新たな製品を生み出していくための研究開発、努力がなされているところです。市場での優位性や生産地として安定性などをはかると同時に、後継者の育成も意欲的に行われています。

### ■新しい力、機械金属工業

機械金属工業は繊維工業とともに、市の主流を占めています。設備の近代化や技術水準の向上、さらには共同、協業化などを積極的にすすめながら、受注関係の安定化をはかり、未来に向かって大きく羽ばたいています。

### ■発展する商店街

人々が集い、ふれあい、語りあう場所。ゆとりとやすらぎ、うるおいの感じられる快適さ。単にショッピングする場所というイメージから、商店街の果たす役割りは大きく変わってきました。このため、地域の経済・文化の発展の中心として、魅力ある商店街がまちづくりの重要な要素となっていることはいうまでもありません。ゆとりある空間や緑地、広場など、長期的なビジョンに立ったまちづくりの担い手として、商店街の発展が大いに期待されています。

### ■高収益型農業をめざして

地場産業の織物業が農家の副業として発展してきたことや、近年企業の誘致などによって就労機会が増大してきたことなどから、農家の9割が第2種兼業農家という農業形態を示していますが、その一方で都市型農業をめざして収益性の高い農業への転換をはかっているところです。

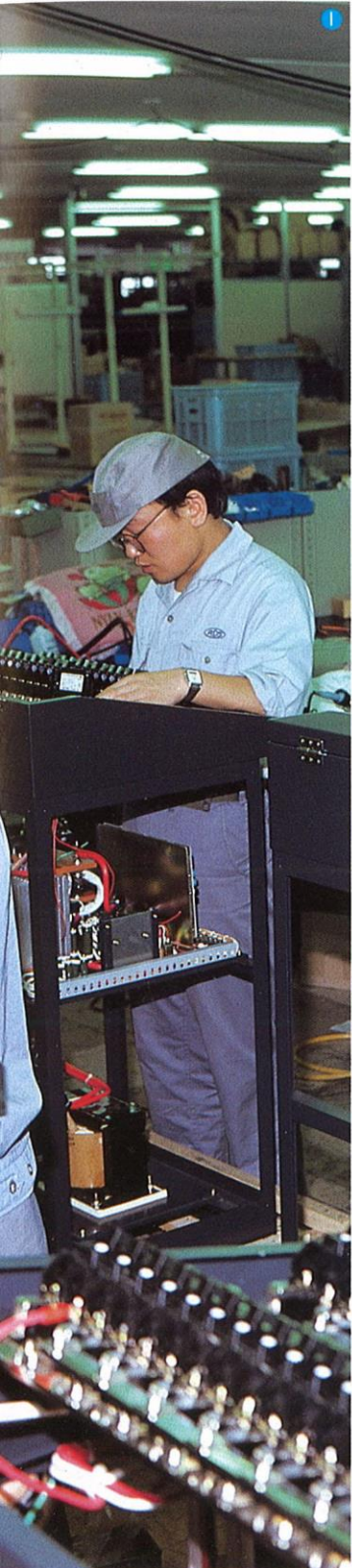
立体的な土地利用をはかった複合経営態、加工型畜産や施設園芸など、小面積でしかも高収入をあげられる農業経営は、出荷野菜の栽培、花き盆栽などの商品作目について積極的な導入をはかっています。

米作に次いで大きな地位を占めていた養蚕農家が大きく減少しており、このため菜園や果樹園への転換などもはかられていますが、今後は積極的な技術指導のもと、本市の気象条件や生産条件に適合した特産品としての作物づくりをめざしています。



- ① 機械金属工場内部
- ② 青空市
- ③ 織物工場
- ④ 商店街
- ⑤ 毎週土曜日開かれる夕市
- ⑥ 甲州織

# る産業の発展



# 都留 STEP & JUMP

## 生活基盤の充実…快適で安

### ■上水道

市の水道普及率は高く、全国平均をはるかに上回る99.4%を示しています。上水道は、市の中心部を給水区域とし、その周辺集落は、20の簡易水道によって賄われ給水人口は約32,000人となっています。これらの水源は富士山ろくを中心とした豊富で良質な湧水、地下水を水源としており、その内容も日本一安くておいしい水を誇っています。さらに将来にわたって安定した供給体制をすすめています。

### ■伸びゆく道路網

昭和39年の中央自動車道開通とともに、動脈としての道路網は、産業、文化の発展に大きな影響を与えました。ことに昭和59年の都留インターの開設により、交通の要衝として大切な役割を果たしています。生活道路として重要な道路づくりを積極的にすすめ、歩行者の安全と快適な空間の創造をめざして、道路整備の充実をはかっていきます。

### ■安全で快適なまちづくり

私たちの生活を安全で快適なものにするため、良好な市街地整備がすすまられています。すべての市民が良好な環境のもとで快適な生活ができるようにするために、将来に悔いを残さないような土地利用計画にもとづいた基盤整備が必要なことはいうまでもありません。このため、住宅・宅地の確保をはかりながら、公営住宅を積極的に建設し、住宅を建てる人々に優良な宅地を供給していきます。整然としたまち並み、うるおいやすらぎを与えてくれる緑地空間の確保など、市民の居住性と快適性に根ざしたまちづくりが着々とすすまられているところです。

### ■クリーン“都留”をめざして

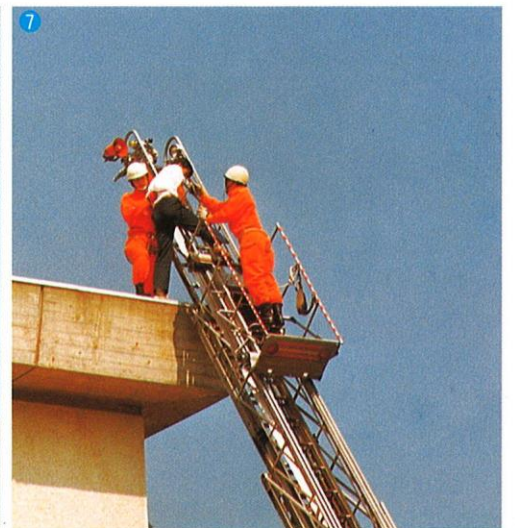
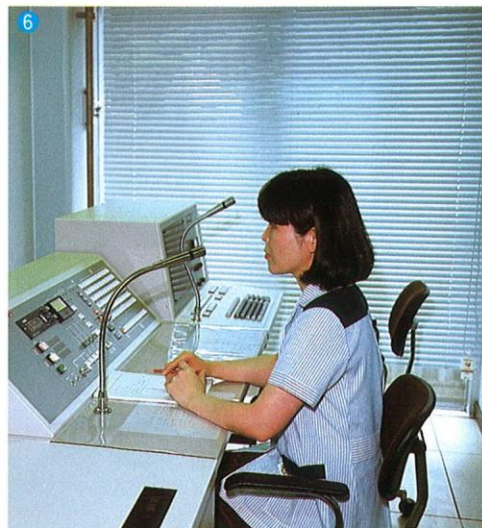
近年、河川や水路の水質の汚れなどから、一日も早く下水道を整備していく必要があります。このため、県の流域下水道計画にあわせて、隣接する市町との協力のもとに下水道事業をすすめていく考えています。

クリーンなまちづくりのために、市民総参加のもとに一斉清掃活動が展開されていますが、ゴミ、粗大ゴミ、し尿についても大月都留衛生組合での処理能力をさらにアップしていくよう施設整備の充実をはかっています。



- ① おいしい水(夏狩)
- ② 環境も整った住宅街
- ③ 中央自動車道都留インター
- ④ 白木山公園
- ⑤ 地域総出の定式
- ⑥ 防災無線
- ⑦ 防災訓練

# 全な生活環境の創造



# 都留 STEP & JUMP

## 保健・医療の充実

### …健康と清潔を保つ環境づくり

#### ■成人病は早期の発見と治療で

伝染病の発生はほとんどなくなったものの、脳卒中や心臓病、各種ガンなどの成人病は増加の一途をたどっています。しかし、これら成人病も早期発見、早期治療を心がけることによって、未然に防ぐことができます。

昭和49年から市が実施している総合検診（1日ドック）も参加者が増え、積極的な対策とともに、その効果もあがっています。市ではこのほか、各種予防接種の実施、乳幼児検診の実施、結核住民検診、栄養改善、母子健康管理事業、などを実施、市民の健康保持に努める一方、市内各事業所、奉仕団体、高校等の協力によって、県血液センターの巡回採血車による集団献血も毎月実施し、大きな成果をあげています。

#### ■医療サービスの充実をはかる

市内の医療施設は、病院1、有床診療所9、無床診療所5、歯科診療所10となっていますが、富士吉田、大月の郡内2市と比較してもその数は少なく、ことに入院診療については市外の医療機関に頼らなければならないのが現状です。

人口の高齢化と医療の高度化に対応できるよう診療体制の整備が、本市における今後の大きな課題となっていますが、市民の健康を守り、身近なところで十分な医療サービスが受けられるよう、都留診療所の診療体制の整備を計るとともに、入院診療設備の完備した公的総合病院の建設についても早期実現に向けて努力しております。

- ① 3歳児検診
- ② 成人病検診

①

写真

②

写真

# 都留 STEP & JUMP

## 住民福祉の充実

### …理解と協力による豊かな福祉の実現

#### ■高齢化社会にそなえて

高齢化社会への移行の中で、本市の65歳以上の人口比も10.9%と国の水準を上回っています。市民の高齢化はこのように確実に進んでおり、生活環境もそれにつれて変化していくことが予想されています。

このため、市ではきたるべき高齢化社会にそなえて、老人が、健康で生きがいのある生活ができるよう老人の健康診断や敬老年金の支給など、老人福祉の増進をはかるよう努めているところです。また、市内に58クラブが設立されている老人クラブも会員数3,200人を数え、その数も年々増え続けています。事業活動は老人福祉大会やスポーツ大会、健康旅行など活発に行われ、老人福祉センターの利用とあわせて充実しています。

#### ■福祉の環境づくり

寝たきり老人やひとり暮らしの老人、高齢者世帯への看護などについては、奉仕員などによる巡回を実施し、ボランティア活動による援助もまた大きな支えとなっており、ここには市民一人ひとりの思いやりにみちた、福祉の環境づくりの姿が見られます。

お年寄りの豊かな経験と知識、技術を積極的に活用できるようシルバー人材センターの充実も、大きな成果をあげています。

#### ■ボランティアに参加する市民

福祉は心。施設の充実ももちろん欠かせませんが、住みよいまちづくりのためには、市民一人ひとりのあたたかな思いやりと、お互いを理解し、協力する助けあいの心がなによりも大切です。心と心のふれあい、市民のまごころできめ細かな地域福祉サービスが行われています。

①

写真

②

写真

③

写真

- ① ゲートボール
- ② 老人福祉センター利用風景
- ③ 久保老人クラブ清掃奉仕



## ■市民参加のまちづくり

めまぐるしく揺れ動く現代社会にあって、市を取りまく社会、経済は大きく変化しており、市民生活もまた複雑、多様化しています。さらに市民の行政ニーズも拡大し、うるおいややすらぎなど、より内面的な生活の充実を求めるようになり、行政の領域もますます広がってきました。このため、地域社会における市民参加を通して、市民と行政とが一体となったまちづくりを推進していく必要性がより強くなってきました。

市民の行政ニーズを適確に把握し、市民とともに歩む市政をめざして、市民総参加の市政を推進していきます。

## ■効率的な行財政運営をめざして

市民意識が多様化する中、市民参加による新しいまちづくりが求められ、また、それにつれて行政需要も増大してきました。そのため、行政機構を質的にもより充実させ、事務を合理化し、より効率的な行財政運営が求められています。コンピューター導入による共同事務の集中処理や情報処理システムの確立によって、正確、迅速な窓口サービスに努めています。また、東部広域市町村圏の中心都市として、広域圏計画に基づき、地域社会の整備をすすめ、発展のために重要な役割りを担っています。

## ■参加と対話で市民の声を反映

市議会は、市民の代表として選挙で選ばれた22名の議員によって構成され、市政運営の方針や予算、条例の制定、改廃などを検討したり審議するといった大切な役割りがあります。

議会には、総務、社会、経済、建設の常任委員会があり、市の進路を決定するため、年4回の定例会と必要に応じて臨時議会が開かれます。審議された事項については執行機関によってただちに実行されますが、ここでは市民と行政を結ぶパイプ役として、市政発展のために市民の声を反映させるというとても大切な働きをしています。



- ① 窓口
- ② 打合せ中の三役左から都倉昭二市長、山口恒夫助役、棚本安男収入役
- ③ 執務中の議長、副議長左から小笠原欽之介副議長、牛田勝男議長
- ④ 市庁舎全景
- ⑤ 市長と語る会
- ⑥ 議場

# 自治の推進

